

25 春闘

No.5

春闘情勢は「大幅賃上げの定着」

記録的物価高と人手不足の中、労働者の生活安定や人材確保のため、今年も大幅賃上げを検討する企業が増加中です。モチベーション向上や将来の成長に向け、昨年以上の賃上げや複数年に亘る賃上げを表明する企業も相次いでいます。



連合は25春闘でベア相当分3%以上、定期昇給を含め5%以上の賃上げ要求方針を決めました。経団連は「およそ30年ぶりとなる高水準の賃上げを2年連続で更新」「醸成されてきた賃金引上げの力強い勢いを社会全体に波及させ、定着させることが経団連と企業の社会的責務」と述べ、石破首相も「2025年は賃上げ定着の年に位置付けたい」と述べています。

30年間賃上げを抑制した結果

賃金 ▼ 横ばい	×	利益	→	内部留保 ▼ 1.8倍
----------------	---	----	---	-------------------

この間、経営側は30年間も賃上げを抑制し続け、内部留保を蓄えました。2024年の内部留保は588兆円となり30年前に比べ1.8倍となっています。経営側の方針として労働者の生活の為ではなく「景気打開策としての賃上げによる経済好循環」が目指されている事を忘れてはなりません。

賃上げは「機運」や会社の表明で決まるものではなく、労働組合が要求して勝ち取るべきものです。会社が掲げる「持続的成長」や「社員・家族の幸福」を実現するためには賃上げは生活水準向上のため必要不可欠です。



**組合員と家族の利益・生活を守っていくために
25春闘のたたかいを推し進めていこう！！**